
君と僕と

雨邪鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君と僕と

【コード】
N8523R

【作者名】
雨邪鬼

【あらすじ】
猪突猛進に進む彼女【立花瓜莉】と、名は体を現す【流転】の物語。

黄昏の青

「バツキャローーーーー！！！！」

叫ぶ女子校生『立花瓜莉 / t a t i b a n a u r i r i』

「……ば、ばかやるー」

恥じを知る17歳『流転 / n a g a r e u t a t a』

「ダメダメ！！全然なつてないぞ、少年ツ！！」

笑顔で怒鳴る、通称『うりり』とは幼稚園からの腐れ縁だ。

「誕生日が うりりのが早いからって、少年はないだろ」

「気持ちの問題だよ気持ちの！！」

彼女と二人、ある夏の河川敷。

たまにはストレス発散に付き合えと言われ、共にいる。

「ほら、対岸の釣り人がこっち見てるじゃないか」

「対岸だから当たり前でしょ？たく、小さい小さい！」

何が愉快なのか、笑みを絶やさず、僕の背をどやしつける。

「痛いってば！？たく、うりりのストレス発散先は俺の背か？つての！！」

「うん、そうかもしれないね！」

あはは笑いが得意なうりり。
対岸のみならず、周囲からの視線が気になる。

「で、どう？もう一度叫んでみよっか」

「いや・・・遠慮しとくよ」

「そう？もつと腹の底から声を出してみなよ？気持が良いよ？」

「いや、きつと俺の背を殴ったのが気持よかつたんだと（フグウ！
？」

「あっはっは！！うたたもなかなか言うね！！見直した！」

ドン・ドン・ドンと一定のリズムが僕の腹を伝う。

いじめかっこわるい、と茶々を入れようかと思っただが、
頭のどこかでこれはイジメじゃないと僕を制した。

「ふう・・・うりりと一緒にいると鍛えられるよ」

「でしょ？まだまだ鍛えてあげるよ？」

「・・・まあそれはまた今度で」

馬鹿な掛け合いを続けつつ、日陰を求め鉄塔の脚部に向う。

旺盛な草野球の掛け声、犬と散歩する主人、自転車で駆け巡る釣り
少年。

そして僕たち。

河川敷に集うある夏の放課後。

「ひとしきり殴ったら汗かいちゃった」

「さらっと怖いこと言ってるよ!？」

気まぐれな彼女を、僕はいつからか支えようとしていた。

鉄塔の脚部、日陰になるコンクリート壁に背を預け、青々とした芝生に腰を下ろした。

「・・・ねえ、うたた？空ってなんで青いんだろ？」

陽光を避ける様に手でひさしを作る。

遠く彼方、空の先を見つめる様に、ぼーっと見入るとてもなく、青い空である。雲ひとつない。

「ん？なんだよ急に、らしくないことを言うな」

「らしいもらしくないもあるか！これが私だ」

胸を張り、胸を叩く彼女。

汗で張り付く白いシャツ。

何故かゴクリと喉がなった。

「あー、はいはい」

慌てて視線を逸らす。

気恥ずかしくて無愛想な返事しか返せなかった。

「で、うたたは何で空は青いと思う？」

何故かニヤリと笑い、視線を逸らした僕の顔を覗き込む。

「そつだなあ・・・」

呆れた様に振舞って、うりりの顔を押しつけて、再び空を眺め直す。

視界一面に青の世界が広がる。

彼女もまた僕の言葉を待つ様に空を見上げていた。

「じゃあそうだな、あれだ。宇宙はきつと濃い藍色なんだよ」

「いやいや、何故青いかだよ少年。空が」

「ああ、だから宇宙が関係してくる。

きつと空の上、宇宙の色が空気と触れ淡くなって青く見えるんだ、だから青い」

「・・・そうか、空気は宇宙と触れている・・・か」

何を感じたか、首を捻りつつ眉をしかめられた。

「何だ？ここってそんなに真面目に考えるトコなのか？」

「ん？いや、そうじゃないんだけどね。ちょっと面白いかなって」

少し前までの威勢の良い笑いではなく、優しく微笑まれた。

「要するに絵の具と水の関係でしょ？」

「まあそうなるな・・・で、うりりは何で青いと思うんだ」

「そりゃあ、声が大きな人が、空は青いと言ったからさ！！」

悪戯な笑みを僕に向け、今日もまた一日が黄昏る。

「らしいな」

気づくと優しい笑みが漏れていた。

君と僕と 黄昏の青 今日はそのような青春の1ページ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8523r/>

君と僕と

2011年10月8日21時34分発行